

新たなステージへ



関西国際空港株式会社
代表取締役社長

村山 敦

皆様の多大なるご尽力により、去る8月2日に第2滑走路のオープンを迎えることができました。地球の大交流時代の幕開けに、第2滑走路がオープンできたことに感謝したいと思います。アジア各国で新空港や新滑走路が次々と整備されているなか、ようやく我が国でも関空が日本で初めて「複数の4,000m級滑走路を持つ完全24時間空港」となり、アジアそして世界と関西を結ぶゲートウェイとして、新たなスタートを切ろうとしております。

第2滑走路ができたメリットとしては、10時台や13時台のピーク時間帯の増便ができるようになります。加えて、滑走路のメンテナンスが交互にできるようになり、完全24時間空港の実力が発揮できます。特に、深夜貨物便の増加に期待しています。また、現在の首都圏の成田、羽田の両空港の容量は既に満杯状態ですから、容量の増えた関空がそれを補完できる意味は大きいといえます。21世紀の日本の航空需要にこたえられるキャパシティを関空で整えられたことは、関西のみならず日本の国全体にとって意義のあることだといえるでしょう。

ただ、関空には大きな課題があります。海上空港の建設に由来する、高コスト構造の是正です。1兆2,000億円もの有利子負債を圧縮し、関空の国際競争力を高めることが必要です。政府のアジア・ゲートウェイ

構想や交通政策審議会航空分科会でも、関空が我が国を代表する国際拠点空港として位置づけられ、高コスト構造の抜本的改善について明記されたことは、非常に大きな前進です。「ようやく山が動きだした」と実感しています。

6月には、2期の計画案を発表しました。旺盛な貨物需要に対応するために貨物地区を広く確保し、旅客ターミナルビルについても、需要動向に応じた段階的な整備が可能となるよう、柔軟な配置計画としました。なかでも、関空の今後の一つの大きな柱である貨物については、1期空港島の貨物地区は既に満杯で拡張余地がなく、その機能拡充が急務であります。2期計画案の早期実現を目指し、先見性をもって事業を進めていくつもりです。

関空というインフラを最大限に活用し、関西経済の活性化に役立ててもらいたいと考えています。古代に難波津が果たし、中世に堺が果たした役割を、21世紀に関空が果たすとの思いで今後も取り組んでまいります。

今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。